

1 学校教育目標

「くまもとの教職員像」、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「人権教育取組の方向」、「特別支援教育取組の方向」、「体育保健課取組の方向」及び本校の「白梅の精神」等に則り、「健全な心身の育成」、「学力の充実」、「地域との連携」を柱に、生徒一人一人の個性を伸ばしながら、心身ともに健全で叡智に富み、凜とした気品のある心豊かな人材の育成を目指す。

そのために、全職員が教育者としての基本的資質（①教育的愛情と人権感覚 ②使命感と向上心 ③組織の一員としての自覚）や専門性（① 生徒理解と豊かな心の育成 ② 学習の実践的指導力 ③ 保護者・地域住民との連携）の向上に努めるとともに、互いの連携と協力のもと、創意工夫を生かした教育の実践に努める。

2 本年度の重点目標

- (1) 創立 120 周年を節目とし、さらなる組織力の強化による本校の目標達成を図る
- (2) 自ら考え学び、困難にも果敢に挑戦しうる一高生の育成
- (3) 新学習指導要領を踏まえた授業改善及び ICT を活用した学習活動の推進
- (4) 幅広い経験に基づいた自己変革力を兼ね備えたリーダーの育成
- (5) 道徳教育と人権教育の推進

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教育目標実現のための体制づくり	教育目標実現や課題克服に対応した組織づくり	運営委員会を中心とした各部や各委員会の連携強化	・ 定期的な委員会開催による各分掌間の協議の場の設定	A	各部・各学年の連携が密に図られて学校運営がスムーズに行われている。
			昨年度新設した D1L 推進部の更なる充実	・ SNS 等を用いた情報発信	A	インスタグラムを今年度より開設した。また、スグールの導入もスムーズにできた。
	信頼される学校	特色ある学校づくり	英語コースにおいて更なる特色ある取組の検討	・ 宿泊によるイングリッシュキャンプの実施	A	宿泊によるイングリッシュキャンプが実施され、密度の濃い研修ができた。
			「CORE ハイスクールネットワーク構想」の実現	・ 教育委員会からの指導のもと、受信校との連携 ・ コンソーシアムにおいて更なる充実のための協議	A	関係機関や小国高校とも密に連携を図りながら、適切な配信ができた。また、校内においても定期的に関係者が集まり会議を行いながら、情報の共有を行った。
	働き方改革	働き方改革に係る環境整備と教職員の意識改革	教職員の平均勤務時間外在校時間の昨年度比 5 % 削減	・ 業務の縮減、業務の平準化等の積極的な推進	A	朝課外の廃止の効果もあり、昨年度比 5 % 以上の削減を実現できた。
学力向上	授業の充実	研究授業・公開授業期間の活用	全職員による最低 2 回の授業参観の実施	・ 1、2 学期に約 1 か月の公開授業の期間を設け、共通の目標を掲げて実施し、評価シートを使ってフィードバックする。	B	・ 公開授業期間等で全ての教科科目で研究授業を実施できた。授業評価をもとに共通のテーマで取り組んだが、2 回目の評価は 1 回目より低く、フィードバックのやり方やアンケ

		I C T機器を効果的に活用した授業の実践	I C T機器を効果的に活用した授業をテーマとした研究授業及び授業研究会の実施	・公開授業・研究授業期間に各教科でI C T機器を効果的に活用した授業実践について研究する。	A	一項目の工夫が課題。 ・ほとんどの授業でI C T機器が意欲的に活用されており、実践研究が進んでいる。「百問繚乱」も導入が進み、働き方改革にも繋がった。
	自学力の育成 観点別学習評価の運用	家庭学習時間の確保	・平日2. 5時間の家庭学習時間の確保 ・「Classroom」 「Classi」等を活用した学習管理	・宅習時間調査等で生徒の取り組み状況を把握し、授業の工夫改善等に繋げるため教科会で検討する ・調査の分析を、担任との二者面談や教科担当者面談の際に活用する。 ・「Classroom」 「Classi」等を活用し取組の工夫と学習時間の確保を促す。	B	・宅習時間調査から1・2年生の家庭学習時間が目標値まで達しなかった。特に休日の学習時間の減少がみられるので、今後対応策を検討。また予習・復習の習慣づけも課題。 ・二者面談に活用できるように各担任には時機を見てフィードバックできた。 ・「Classi」の活用が進み、宅習時間調査期間だけでなく、日々の学習への確認や管理がしやすくなった。
		観点別学習評価方法の運用	・各教科・科目担当者による観点別学習評価に基づく目標・規準、指導と評価の計画表の作成と運用	・年度当初に各教科・科目の目標・規準・指導と評価の計画表を作成し、授業で提示する。	A	・昨年度末から今年度当初にかけ、各教科に働きかけ、評価規準と指導と評価の計画表を作成できた。
キャリア教育 (進路指導)	夢実現に心を燃やし主体的に進路を切り拓く生徒の育成	進路情報の共有化と発信	進路環境や生徒の現状に関する情報の発信と共有化推進	・3年進路検討会、1・2年学力分析会の実施 ・「進路ニュース」(年4回)の発行 ・D1ネット(週1回以上の更新)等を用いた生徒への情報の提供 ・進路だより等を用いた職員への最新の進路情報の発信	B	進路検討会、学力分析会については予定どおり実施することができ、今後の指導の方向性を確認する有意義な会となった。D1ネットでの情報提供において、週2回以上のペースで更新できた。また進路だよりは18回発行できた。進路委員の活用が限定的であり、もっと活用すべきであった。
		教科指導力及び進路指導力の向上	各教科との連携強化による職員の教科指導力及び進路指導力の向上	・大学入試説明会等参加の促進及び情報の還元	B	入試説明会の内容については、進路だよりの中で還元ができた。ただし説明会の職員の参

				・難関大指導に関する研究の促進 ・大学入学共通テストに関する分析（進路ニュース）		加をもう少し促すべきであった。上位層個別指導担当者の中で難関大指導研究会が実施できた。意見交換、情報収集の貴重な場となった。
		進路志望実現に向けた、生徒自身の主体性向上	進路志望実現に向け生徒が主体的に選択し、探究し、活動する環境の整備	・オープンキャンパスやシンポジウム等（D1ネットを用いて）への主体的参加の促進 ・希望者向けの放課後実施のものや全員参加型のキャリアガイダンス（出張講義）の実施 ・受験の手引きの活用促進 ・進路資料室の整備	B	新たに選択制キャリアガイダンス（2，3年生全員が自ら受講したい講座を選択）を導入し、国公立大学のみから22講座を開講した。積極的に質問する様子も見られ、また感想を読む限り非常に好評であった。資料室を整備し、資料の活用についても促すことができた。オープンキャンパスやシンポジウムへの参加の促進がもっとすべきであった。
生徒指導	生徒指導の継続と徹底	基本的な生活習慣の確立	自己管理の徹底 ・整容（身だしなみを整える習慣） ・時間の厳守（時間を守ることの大切さを知る） ・基本的礼節を身に付ける（発声挨拶）	・整容指導、礼節指導、遅刻指導の実施（定期的な整容指導と礼節の指導を行い常に身だしなみを意識させる） - 授業開始や集会などには5分前には集まる習慣をつけさせる。	B	生徒部主導の一斉検査は行わず日々の学校生活の中でHR担任や教科担任などで整容や礼節などの指導を行うようにした。クラス間での温度差が出てきており課題が残った。時間を守ることに関しては全体としてはできていたのではないかと。しかし若干の生徒に関してはルーズな部分が改善されず課題である。
		通信機器に関するマナー向上、特にSNS等に関するネットモラルの指導を徹底する。	スマートフォン使用に関して（使う時間帯、場所等、特にSNSに関するマナーの徹底）	・SNS等のトラブル回避のためにモラルに関する教育を授業や集会等とおして常に教育する。（ネットモラル等のリーフレット等を活用する）	B	校内でのスマホ使用違反で指導を受ける生徒は全体的に減少傾向にある。ただ、不注意による着信音が鳴るなど軽微な違反が一定数いる一方で今年度は1学年において故意使用で指導されるケースが増えてきた。このことをしっかりと検証し対応していきたいと考えている。

	自主自立の精神の育成	規範意識の高揚とリーダーの育成	一高祭（体育・文化部門）やその他の生徒会主催の行事を充実させるため、生徒会活動の活性化を図る。	生徒会を中心とした組織の中で各々が中心となり企画運営に携わり充実させる。リーダー研修会を実施して生徒会役員や各部署活動や委員会の長を集めリーダーの育成を図る。	A	コロナ禍は落ちてきたが新たに校舎改築に伴って体育館やグラウンドが使えないなどの新たな問題が出てきた。創立120周年の記念行事を含め会場をパークドームや市民会館で体育部門や文化部門を実施したが生徒会を中心に企画から運営に至るまで見事に目標を達成してくれた。今年度もリーダー研修会を実施することが出来なかった。各部活動や生徒会のリーダーたちは夫々の伝統を引き継ぎ立派な活動が出来ていたのではないかなと思う。
人権教育の推進	教育活動全体を通じた人権教育の推進	職員、生徒の人権意識の高揚	人権教育推進の年間指導プログラムの実践	・3部合同（保健部、教育相談部）教育講演会の実施（年1回） ・2部合同（教育相談部）の職員研修（年3回） ・各学年人権LHRを実施（年2回）	B	・講演会は、11月に2・3年生対象に実施し、ストレスマネジメントについて学んだ。 ・2部合同の職員研修は年3回実施し、生徒の情報交換を行った。 ・人権LHRは、内容の見直しを行い、年3回実施することができた。
	「命を大切にすることを育む指導」の推進	自他の「命」を尊重し、慈しむ態度と心構えを育む取組、及び自らの自尊感情を高めるためのストレス対処に関する取組	教科指導や学年（学級）指導等、全ての場面で「命を大切にすることを育む指導」を根底に据えた教育活動の実践とストレス対処プログラムの実施	・「命を大切にすることを育む指導」プログラムを周知する。（各学期1回） ・生徒人権委員会実施（月1回）	B	・文部科学大臣ならびに孤独・孤立対策担当大臣のメッセージを長期休業明けに配信すると共に、いじめのアンケートを行い、生徒の実態を把握し、対応した。 ・オンラインで開催された人権子ども集会に人権委員会の生徒36名が参加し、人権意識を向上させた。
いじめの防止等	いじめ根絶に向けた取組	いじめ事案に対する組織的対応	いじめ防止の年間指導プログラムの実践	・毎月10日（祝祭日・土日は前後の日）を「いじめ防止の日」として、「いじめを許さない宣言文」を宣誓（年10回）	B	・毎月10日に「いじめを許さない宣言文」を放送部の協力のもと、各クラスで読み上げ、年10回実施した。 ・スクールサインは83%の生徒がテスト送信を行った。

				・生徒人権委員会主導でのいじめ防止につながるための標語作成（年１回）		・生徒人権委員会が標語を作成し、D1netに掲載した。
			いじめに関するアンケート実施と結果への組織的対応	・いじめについてのアンケート実施（年４回）と結果を受けての組織的対応	B	いじめについてのアンケート及びいじめ対策委員会を年に３回実施し、各関係部署と連携を図りながら丁寧に対応した。
特別支援教育	生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくり	生徒の状況把握と理解に基づいた対応	特別な教育的支援や配慮を必要とする生徒の実態把握と具体的支援策の検討・実施	・組織的な支援体制の構築（校内委員会の実施と生徒への対応） ・週１回の学年会、教育相談部会における情報収集・共有と関係職員との連携 ・年２回の生徒理解研修による全職員の共通理解 ・SCやSSW、外部機関との連携	A	部会や学年会、生徒理解研修を通して情報共有を行い、SCやSSWと連携して対応することができた。また、保健室と連携して、可能な限り、特別配慮や別室を利用する生徒への対応を行った。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	総合型コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の実施	年間計画に基づいた学校運営協議会の計画的な実施	学校運営協議会における学校運営に関する意見への対応及び基本方針の承認	・年２回学校運営協議会を開催し、具体的な資料提示等による協議及び承認	A	２回とも対面で実施することができ各委員からは、学校運営上参考になるご意見を多数いただくことができた。

4 学校関係者評価

- ・生徒の自主性について、「予習・復習をして授業に臨む」や「読書に親しむ」については生徒と保護者や教職員間に評価の差があることが気になる。
- ・中学校でも、進路指導のやり方が変わってきている。また、生徒にとって高校進学が当たり前の時代ではなくなってきた。
- ・小学校では、非認知能力を高めながら、認知能力も高めていく方向にシフトしている。
- ・第一高校は非常に雰囲気の良い学校だと思う。１２０周年を迎えて、同窓会では記念誌の作成を進めている。
- ・全体的に良い生徒が多いが、積極的で主体的に取り組む生徒が今よりもっと増えれば良いと思う。
- ・夏休みには、インターンシップで第一高校の生徒さんには大変お世話になっている。この場を借りて、感謝申し上げます。

5 総合評価

- ・今年度は、新型コロナウイルスが２類から５類に変わり、教育活動もほぼ平常時に戻った。そのため、生徒アンケートで「よく当てはまる」や「やや当てはまる」の割合が昨年度より増加している。
- ・生徒・保護者・職員とも高評価の項目は例年と特に変わらないが、生徒について「積極的に読書に取り組んでいる」の評価が大幅に低下している。これは、日課の変更で、朝読書がなくなったことが影響していると考えられる。
- ・全体的に教職員の評価に比べて、生徒、保護者の評価が低いのは例年と変わらない。
- ・生徒・保護者について「予習・復習に取り組んでいる」の評価が他の評価と比較して低かった。

- ・学校行事が実施できたため、生徒について「何事にも主体的に取り組んでいる」の評価が昨年度と比較して高くなった。
- ・時間外勤務時間の縮減については、本年度より朝課外が無くなったこともあり、大幅に改善された。

6 次年度への課題・改善方策

- ・ここ数年、国公立大学合格者数は増加傾向にあり、高校入試における志願者数も増えている。これに甘んじることなく、さらなる魅力化推進を図っていきたい。
- ・来年度から「オーストラリア交流事業」を「海外交流事業」と進化させて、行き先をハワイに変える予定である。この事業をさらに充実させていきたい。
- ・生徒の主体性について、今以上に向上させていきたい。そのために、すべての教育活動の中で働きかけを行っていきたい。
- ・働き方改革については、衛生委員会の充実や職員の意識向上により、進んできている。来年度は、業務の平準化を図ることで、さらに推進していきたい。